

## ブドウの新品種‘オーロラブラック’の育成

誌名	岡山県農業総合センター農業試験場研究報告 = Bulletin of the Agricultural Experiment Station, Okayama Prefectural General Agriculture Center
ISSN	13466658
著者	尾頃, 敦郎 小野, 俊朗 村谷, 恵子
巻/号	21号
掲載ページ	p. 1-3
発行年月	2003年7月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



# ブドウの新品種 ‘オーロラブラック’ の育成

尾頃 敦郎・小野 俊朗・村谷 恵子\*

New Grape Cultivar ‘Aurora Black’

Atsuo Ogoro, Toshiro Ono and Keiko Muraya\*

## 緒 言

ブドウに対する消費者の嗜好は大粒で甘いものへと変わり、岡山県では1970年代から4倍体の大粒系ブドウの栽培に取り組んだ。しかし、現在本県を代表する品種となっている ‘ピオーネ’ の無核果技術が確立する（岡山県、1981）までは、結実不良や着色不良、無核化に伴う脱粒などの問題があり、栽培が不安定であった。

岡山県農業総合センター農業試験場では、消費者の嗜好にあった栽培しやすい本県オリジナルのブドウ品種を育成するため、1983年から自然交雑種子や交配種子を播種し有望個体を選抜してきた。その中から ‘ピオーネ’ とほぼ同時期に成熟し、大粒で脱粒しにくく肉質が締まり、食味が良好な新品種 ‘オーロラブラック’ を育成した。

本品種は2003年2月に品種登録されたので、その育成経過と特性の概要を報告する。

## 育成経過

‘オーロラブラック’（系統番号116）は1983～1985年にかけて岡山県立農業試験場（現岡山県農業総合センター農業試験場）において10品種の自然交雑実生223系統、8品種間14組み合わせで交配した実生82系統の計305系統の中から選抜した。1989～1993年に ‘オーロラレッド’ の自然交雑実生である ‘116’ を含めた4系統を一次選抜した。これらの系統は複製個体を2個体ずつ育成し、

1994～1995年に二次選抜を行い、糖度が高く果粒が大きい系統番号 ‘116’ を選抜した。この ‘116’ は2000年3月8日に ‘吉備紫’ の名称で品種登録出願を行い、その後 ‘オーロラブラック’ に名称変更し、2003年2月20日に品種登録された。

親である ‘オーロラレッド’ は1977年に試験場に導入された4倍体の紫赤色の太粒ブドウであるが、仮称であり品種登録されていない。

## 特性の概要

### 1. 形態的特性

形態的特性は1992年度種苗特性分類調査報告書（ブドウ）（山梨果試、1993）に従って行った。

#### (1) 樹の特性

樹冠の広がりの中で、樹勢は強い。枝梢の太さは太く、暗褐色である。節間横断面の形は楕円、表面の形状は細溝がある。幼梢先端は薄赤色である。葉の大きさは中で、成葉葉身の形は五角形、裂片数は五片である。葉身横断面の形は波打ち、葉縁鋸葉の形は両側直線、葉柄裂刻の一般的な形は開き、上裂刻の一般的な形は重なり、上裂刻の深さは浅い。成葉の上面は緑色で、下面は黄緑色である。成葉の下面葉脈間の綿毛の密度は中位、下面主脈上の綿毛の密度は粗である。葉柄は淡紅色で、中肋に対する葉柄の長さの比は短く、葉柄の太さは中である（表1）。

花穂の着生数は多く、花穂の大きさは中位で、花性は

\*現岡山県農業総合センター勝英農業改良普及センター  
2003年6月27日受理

表1 ブドウ‘オーロラブラック’の樹の特性

品 種	樹の 広がり	樹勢	枝梢の 太さ	成葉		下面葉脈間の 綿毛の密度	下面主脈上の 綿毛の密度	葉柄	
				葉身の形	裂片数			色	太さ
オーロラブラック	中	強い	太い	五角形	5片	中	粗	淡紅	中
ピオーネ	大	強い	太い	五角形	5片	無～極粗	粗	紅	中
巨 峰	大	強い	太い	五角形	3片	無～極粗	中	淡紅	中

表2 ブドウ‘オーロラブラック’の果実特性

品 種	果粒の形	果皮色	果皮の 厚さ	果粉の 多少	果皮と果肉 の分離	果肉の 着色	肉質	香気	果汁の 多少
オーロラブラック	円	紫黒	厚	中	中	不着色	中間	無	多
ピオーネ	倒卵	紫黒	中	中～多	中	不着色	中間	フォクシー	多
巨 峰	倒卵	紫黒	厚	中～多	中	不着色	中間	フォクシー	多

表3 ブドウ‘オーロラブラック’の果実品質 (1996～2002)

品 種	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (brix)	果皮色 <sup>c)</sup>	無核果粒率 (%)	成熟期
オーロラブラック(有核) <sup>a)</sup>	122	13.2	19.3	8.5	—	9月中旬
オーロラブラック(無核) <sup>b)</sup>	541	14.8	18.3	9.4	98	8月下旬～9月上旬
ピオーネ	586	17.1	18.4	8.0	100	8月下旬～9月上旬
巨 峰 <sup>b)</sup>	432	10.7	17.9	8.8	95	8月中～下旬

a) 有核果実は1988～1993のデータ

b) オーロラブラック、巨峰はピオーネに準じたジベレリン処理

c) 農水省カラーチャート

表4 ブドウ‘オーロラブラック’の果実品質 (2000)

品 種	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (brix)	果皮色 <sup>a)</sup>	果肉硬度 <sup>b)</sup>		脱粒性(kg) <sup>c)</sup>	
					収穫日 <sup>d)</sup>	4日後	収穫日 <sup>d)</sup>	4日後
オーロラブラック	528	15.0	19.6	10.5	23.4	34.3	1.10	0.65
ピオーネ	541	15.7	19.4	9.9	26.8	33.3	0.64	0.42

a) 農水省カラーチャート

b) ハンディヒット示度(数値が大きいほど果肉が軟らかい)

c) 果粒と果梗の接着強度(数値が大きいほど脱粒しにくい)

d) 収穫日は9月4日

表5 オーロラブラックの評価  
(岡山、大阪の仲卸業者55社の回答割合%)

○食味について	良い	同程度	劣る	
ピオーネに比べて	24.2	47.6	28.2	
藤稔に比べて	58.7	28.4	12.9	
○価格について	高い	同程度	安い	
ピオーネに比べて	7.5	57.7	34.8	
藤稔に比べて	43.3	43.9	12.8	
○有望度	非常に高い	高い	やや低い	非常に低い
	33.4	49.5	17.1	0

○その他意見

- ・脱粒しにくいブドウは安心して扱うことができる。
- ・ネーミングを考えれば、より販売がしやすくなる。

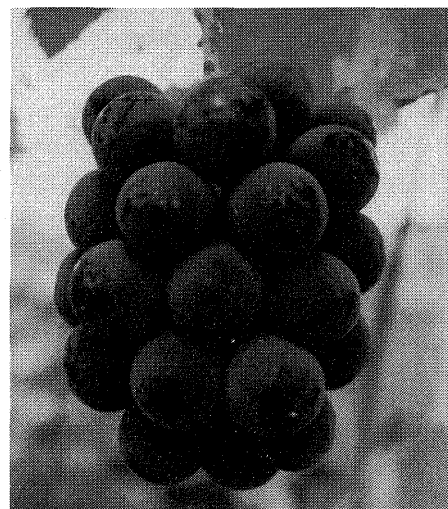


図1 オーロラブラックの成熟果房

両性である。花振るいの多少は多である。

開花期は中位、成熟期は早く、育成地で9月中旬に成熟期となる。

## (2) 果実の特性

自然状態の果房は有岐円筒形で大きさは中位、長さはやや長く、着粒の粗密は粗である。果梗の太さは太く、長さはやや短く、黄緑色である。

果粒は円形で、大きさは極大、果皮の色は紫黒色で、果皮は厚く、果粉の多少は中位、果皮と果肉の分離性は中である。果肉は不着色で肉質は中間、果汁は多い。甘味は中位で酸味は少ない。渋味はかなり少なく、香気は無い。種子の数は少なく、形は中位、大きさは大である。裂果は少なく、果梗の強さは強く、果梗と果粒の分離は中位、果実の日持ち性は中である(図1、表2)。

## (3) 他品種との区別性

‘ピオーネ’及び‘巨峰’と比較して、成葉の下面葉脈間の綿毛の密度が中であること、果粒の形が円であること、香気が無いこと等で区別性が認められる(表1、表2)。

## 2. 栽培上の特性及び留意点

‘オーロラブラック’は花振るい性が強く、着粒数を確保するためにはジベレリン処理が必要となる。‘ピオーネ’と同様のジベレリン処理(満開～満開3日後、満開15日後にジベレリン25ppmの花(果)房浸漬)により着粒数が確保でき、種無し、大粒生産が可能である。

花(果)房管理は‘ピオーネ’と同様に開花3日前～開花始めに花穂先端部を3～3.5cm残して整形し、ジベレリン処理することにより、果房整形が容易で、隙間なく粒が並び締まった果房となる。

ジベレリン処理することにより果粒重は15g程度と大きくなり、成熟期が‘ピオーネ’とほぼ同じ8月下旬から9月上旬頃となる(表3)。なお、ジベレリン水溶剤は‘オーロラブラック’の無種子化と果粒肥大促進を目的に2003年3月7日に農業登録されている。

また、‘オーロラブラック’は非常に脱粒しにくい特徴を有する(表4)。このため、出荷、輸送、販売段階に

おける脱粒も他の無核大粒品種に比べて少ないと考えられる。2002年に‘オーロラブラック’の評価について仲卸業者を対象に調査した結果、脱粒しにくい特徴が非常に高い評価を受けた(表5)。

さらに、誘引時に新梢が基部から外れにくいいため、作業が容易であり、副梢の伸長程度も‘ピオーネ’などに比べて小さいため、新梢管理の労力が少なくて済む。

一方、梅雨明け後に‘オーロラブラック’は元葉が黄変し早期落葉しやすい。一般にブドウの早期落葉の原因としては、土壌の過湿や過乾、夏季の高温などが原因とされており(上田、1996)、排水やかん水管理に注意が必要と考えられる。

また、花穂の着生数が多く、副梢にまで花穂が着生する。このため、初期の新梢生長を停滞させないための摘房、病害発生を防ぐための副梢部分の摘房を十分に行う必要がある。

さらに、着色が‘ピオーネ’などに比べて早いため、収穫に際しては食味を十分に確認してから行う。

## 摘 要

岡山県農業総合センター農業試験場で育成し品種登録した‘オーロラブラック’は、以下の特徴をもつ栽培しやすいブドウである。

1. 4倍体で大粒となる紫黒色ブドウである。
2. ジベレリン処理により無核果生産が可能である。
3. ‘ピオーネ’とほぼ同時期に成熟する。
4. 着色しやすく、肉質が締まり、脱粒しにくい。

## 引用文献

- 岡山県(1981)岡山県果樹農業振興計画書, 59p.  
 山梨県果樹試験場(1993)1992年度種苗特性分類調査報告書(ブドウ), 75p.  
 上田純一(1996)ブドウの老化と落葉, 日本ブドウ学, 中川昌一監修, 養賢堂, 東京, pp.245-261.